2．地域による子どもたちの農業・農村体験活動の立ち上げ

（1）活動主体の形成

地域活動として子どもたちを対象にした農業・農村体験活動を立ち上げる際、主な活動主体として、次のような農業関連組織・個人、社会教育関連組織、地域の有志等による取り組みが想定されます。

◆農業関連組織・個人による取り組み

地域における子ども農業・農村体験の活動主体として、第一に農業関連組織・個人の取り組みが考えられます。農業関連組織は、行政・民間に大別されますが、行政では地域農業改良普及センター、都道府県・市町村の農業関連部署、農業等の試験機関、農業委員会等、民間としては農業協同組合（ＪＡ）、ＪＡ青年組織、ＪＡ女性組織、農業生産法人、農家（グループ・個人）などがあげられます。

また、農業大学や農業高校が子どもたちを対象に農業・農村体験を促す取り組みも、近年、各地で増えています。

◆教育関連組織による取り組み

第二にあげられるのが、地域における子どもたちの育成に以前より取り組んできた公民館・児童館をはじめとする「社会教育」に携わる組織です。市町村教育委員会・教育関連部署、青少年自然の家・青年の家なども含まれます。また、近年、美術館や博物館などでも様々な取り組みを行っており、農業・農村体験をふまえた表現活動等のワークショップ（身体活動を伴った話し合い・ものづくり等）への取り組みを行っている施設もみられます。

◆地域の有志等による取り組み

子ども会やスポーツ少年団、ボーイスカウトなど、子どもに係る地域活動組織は、近年、少子化傾向も加わって活動が停滞していましたが、現在、完全学校週５日制の導入など、地域による子どもたちの育成役割の評価にともない、保護者等が地域組織づくりを進めＮＰＯ認証を得たり、学校・行政機関と連携するなど各地で新しい動きが活発になっています。

また、（株）リコーによる「市村農業小学校」の取り組みなど、社会貢献事業として位置づけることにより、民間企業が子どもたちの農業・農村体験に取り組むケースや、塾的な活動（農業・農村体験に絞ったメニュー、他分野の学習と体験を組み合わせたメニュー）として運営するケース、ＮＰＯ法人等が取り組むケースなど、多様化が進んでいます。

（2）活動継続・発展のポイント

～点から線、面で活動を支える体制づくり

地域による子どもたちの農業・農村体験活動を継続・発展させる上で欠かせないのが、一部のひと・組織に負担が集中しない活動体制づくりです。その際、組織として活動を位置づける、地域における組織・個人が連携する体制を築くといった方策が考えられますが、そうした体制づくりにおいて、地域における組織・個人、組織における部署・個人をつなぎとめる、コーディネイター（つなぎ手）の役割が重要です。

また、農業・農村体験は個人による関心の差が大きく、そうした関心の持ち方が活動の立ち上げや継続に大きな影響を与えます。また、指導者側の姿勢や意欲は、子どもたちの活動への影響も大きいものです。大人側がまず体験し、農業・農村体験への理解を深めることが取り組みの継続・発展において重要なポイントとなります。

活動の継続・発展のポイント（その1）
～個人・有志による取り組みから組織・地域の連携で支える取り組みへのシフト

・組織における活動の位置づけ

農業関連組織や教育関連組織が農業・農村に取り組む際、当初は一部の有志による取り組みとしてスタートすることが少なくありません。しかしながら、取り組みが進み、地域における引き合いが大きくなると、一部の有志に負担が集中しては、活動を継続・定着させることは困難です。

活動組織において、活動を事業計画や中長期構想等に位置づけ、組織全体で活動を支援する体制づくりが望まれます。

・地域における連携体制づくり～地域連絡協議会等の設置

組織における活動の位置づけ以外にも点でなく線・面で活動を支える方策として、地域における関係組織のネットワークで支える方法があります。各地で、子どもたちの農業・農村体験等に係る連絡協議会の設置が増えていますが、こうした協議会を定期的に持つことで、経費やマンパワー、場所・施設・道具といった活動の諸課題への対処が可能です。

また、協議会設置まで至らなくとも、活動のスタート時に、地域の関係諸組織・個人に声かけしておくと、活動のおける相談や協力が期待できます。

活動の継続・発展のポイント（その２）
～地域による活動をつなぐコーディネイターの存在に注目！
活動すべてを抱え込むのでなく、地域の情報窓口を担う方法もある

子どもたちの農業・農村体験に限らず、地域内の組織・個人が連携する多くの取り組みでは、各組織や個人間をネットワークする「コーディネイター」や「つなぎ手」の存在が重要です。このように様々な立場、組織、利害を持つ人々に声をかけ、つなぎ、活動をまとめる役割を個人ではなく、組織が担うことも考えられます。地域による活動すべてを抱え込むことは容易ではありません。まずは地域内の情報を集約・発信する窓口を設置したり、地域における定期的な情報交換の場を設けるのが良いでしょう。

活動の継続・発展はとにかく１ヶ所で抱え込まずに地域で支えることです。

活動の継続・発展のポイント（その３）
～大人たちの農業・農村体験の開催・関係者の関心を促す契機づくり

地域による農業・農村体験を立ち上げる際、子どもたちよりむしろ、大人の側の体験の有無や関心の個人差が大きな課題となっています。また、子どもたちとの活動においても、大人たちの関心や意欲の大きさが活動の成否に関わることが少なくないようです。子どもは大人たちの活動姿勢（背中）をしっかりと見ており、教育の本質をつく部分とも言えるでしょう。

最近、子どもたちの農業・農村体験に関心を持つ教師や保護者を対象に、農業・農村体験を促す取り組みや研修会が増えてきました。また、保護者を子どもたちの体験活動に招き、様々な形のコミュニケーションを促すことも望まれます。